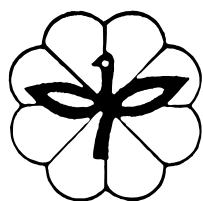


稲美町民生委員児童委員協議会



民児協だより

第44号

令和7年11月
発行

発行者 民児協 広報委員会

事務局 健康福祉部地域福祉課

電話 492-9136

明日へのエール！

～ 民生委員・児童委員の歩みと、つながる未来へ ～

稲美町民児協
田中会長

「地域に寄り添う」その想いを胸に、私たちは3年間、歩み続けてきました。令和7年11月、稲美町民生委員児童委員は任期を満了いたします。

この間、地域の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、委員一人ひとりが日々の活動に精誠を尽くしてまいりました。朝の学校で交わす「あいさつ運動」、訪問や見守り活動、地域課題への対応などの取組にも共通していたのは、まごころをもって人と向き合う姿勢でした。

声なき声に耳を傾け、小さな変化を見逃さぬよう努めた日々。出会った笑顔や交わした言葉のひとつひとつが、私たちの原動力となりました。ときに悩み、ときに励まし合いながら、委員同士が支え合い、地域の皆さまと共に歩んできた時間は、かけがえのない宝物です。その想いは、これからも形を変えて受け継がれていきます。任期を終える委員も、これからは一人の地域住民として、また必要に応じて伴走者として、新たな体制をそっと支えてまいります。

地域の福祉は、誰か一人の力ではなく、つながりの力で育まれるもの。これからも、稲美町があたたく、安心して暮らせるまちであり続けるよう、皆さまと共に歩んでまいりましょう。

最後に、これまで支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

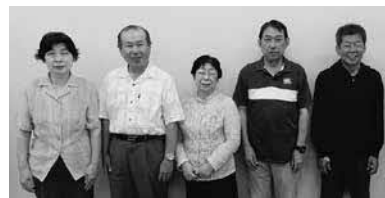
今期に始めた新たな取り組み

- 民児協総会の実施（活動方針等の周知・浸透）
- 町長と民児協の意見交換会の定例化
- 同じ郡内の播磨町民児協との交流研修会の定例化
- 登校児童へのあいさつ運動（児童とのつながりを深める）
- 児童委員活動時着用のオレンジ色のベスト作成
- 稲美町民児協主催の高齢者訪問
- 横断幕を作成し啓発活動を強化

稲美町民生委員児童委員協議会

あいさつ運動

稲美町民児協の活動企画と健全かつ円滑な運営や改善に努めてきた総務部会のメンバー



令和7年度の高齢者訪問事業 (5月～6月)

町からの依頼を受けて、本年も要援護者の早期発見・早期対応を図るための民生委員による高齢者訪問を5月～6月に実施しました。

◇ 対象者：75歳～80歳の高齢者 約3,000名

- 今回の対象者はお元気そうで働いている方も多い一方で、殆どの方が通院もしくは何らかの薬を服用されていることが目立ちました。
- ここ数年のときを経て変容し、高齢者夫婦や独居の方も徐々に増えつつあることを実感しました。



今回は任期3回目の訪問でしたが、こうして定例的に訪問することで、異変に気づいたり会話を喜んでもらえるなど、訪問機会の意義深さを再認識できました。

令和7年度の県外研修 (6.23～24)

本年は、以下の2か所を訪問し研修しました。

● 佐用町の民児協

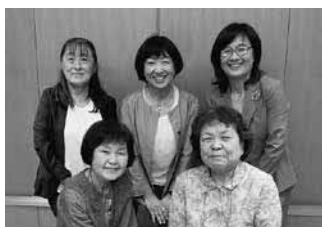
近年の自然災害の多発と激甚化に対する民生委員としての心構えの一助とするために、平成21年の台風9号による豪雨災害に見舞われた兵庫県佐用郡佐用町の民児協を訪問しました。当時の切迫した状況下での安否確認の体験談や災害時避難行動要支援者への対応強化等についてお話をお聞きし、今後の備えに資するたいへん貴重な情報が得られました。

● 社会福祉法人「鳥取こども学園」

乳幼児から就労して自立するまでと、さらにその後のアフターケアに至るまでの児童にまつわる9事業に及ぶ多様な社会福祉施設や児童精神科診療所、養育研究所等の5つの公益事業も行っており、他に類を見ない先駆的取組みと包括的かつ広範囲な事業規模で、大小の様々な施設が集まり一つの集落を形成しているような景観でもありました。

キリスト教の愛を根本精神に創立されて100年以上の歴史を有し、多くの企業からの寄付も貴重な運営資金になっているとのこと。このような社会福祉法人があることを知り驚きと感動を覚えました。

主任児童委員の活動状況



4か月児健診サポート

乳幼児や保護者を見守り、育児などの困りごとを尋ねて対応

子育て交流施設の行事に参加

- ◇ 2歳児3歳児の会 (はじめの会 おわりの会)
- ◇ 夏まつり

教育委員会との連絡会

小・中学校の児童生徒についての連絡会

ふれあい教室訪問

トライやるウィーク見守り

町内・町外研修、施設見学

いなみ野特別支援学校
神出学園 立正学園
清水が丘学園等を見学研修

他に児童の育成に関わる各種の協議会、委員会、フォーラムにも参加！

小・中学校の学校運営協議会活動

- ◇ 児童生徒の活動を補助
- ◇ 学校評価
- ◇ コミスク座談会
- ◇ 小学校クラブ活動の補助
- ◇ チャレラン大会
- ◇ 親子ロボテック教室
- ◇ 親子動物ふれあい教室

幼・保・小・中学校の各種行事に参加

- ◇ 入園、入学、卒園、卒業式に参列
- ◇ オープンスクール参観
- ◇ 体育祭、運動会、音楽会、学習発表会、生活発表会、クリスマス会
- ◇ 幼稚園児絵画展観賞

任期3年間を振り返ってのコメント(地区ブロック長)

加古ブロック



下山ブロック長

良いメンバーに恵まれ、地域内の対応課題については忌憚のない話し合いが出来て充実した認識共有が図れました。

民児協の行事対応についても一致協力のおかげで達成感ありの充実した3年間でした。



天満ブロック



子どもの見守り活動として地区の子どもたちと一緒に登校するのが生活の一部となりました。

高齢者訪問も、やってみて気づいたことも多く見守ることの大切さを再認識しました。

コロナ禍で地域の方々とのつながりが希薄になっていましたが、ブロックのメンバーも各種の相談

対応や登下校の見守りや高齢者訪問などを通じて地域内でのつながりが深まるとともに、感謝される喜びや幾多の学びも得て実りある3年間であったと思います。



松尾ブロック長

母里ブロック



萩野ブロック長

ブロック会メンバーのご協力により、任期3年を何とか全うできました。

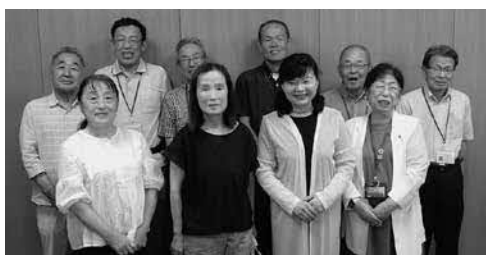
民児協の組織運営は、周到に組み立てられており感心しました。

委員は65歳後半から70歳台の社会経験や人生経験が豊富な方が多く、交流を通じて私自身大いに成長を実感しました。

次期の任で活躍される方々のご健勝をお祈り申し上げます。



天満南ブロック



日々の活動を通して「ありがとう」と感謝されることが多く、地域社会に直接貢献できる充実感と人脈が増え、他の委員や行政職員、福祉関係者との交流を通して視野が広がりました。

また、各種の研修は住民から相談を受けた場合や支援を開始するタイミング、専門職の方と相談し易い関係を築く等、自分たちの役割を適切に果たす上でたいへん有用でした。この3年間、意義のある活動が展開できたことをブロック会の委員仲間や地域の皆さまに深く感謝いたします。



齋藤ブロック長

天満東ブロック



柴原ブロック長

3年間を振り返ると、ブロック会の方々のご協力のおかげで、地域に関わる様々な話し合いやブロックメンバー全体での活動等をつつがなく展開できました。

特に高齢者訪問は、地域内のつながりが深まる良い機会となりました。また、気づいたことのブロック内での情報交換は、より適切な委員活動に向けての貴重な参考になりました。

委員活動を通じて少しでも地域に貢献できたことを嬉しく思います。



任期3年間を振り返ってのコメント(福祉専門部会長、主任児童委員部会長、広報委員長)

★ 福祉専門部会長は3年の任期において、生活・高齢部会、母子・児童部会、障がい者部会の3つの福祉専門部会を1年毎にローテーションして、それぞれの担当部会の研修活動等を統率する任を担ってきました。



水野 部会長

民生委員・児童委員は何をするのかよく分からないまま任命を受けました。数々の研修を受け、民生委員でなければ知り得ないことを多く学ばせていただきました。

活動中に相談を受けた時は自分で解決しようとせずに、しかるべき担当部署に繋ぐことが役目とのことで、心強い気持ちで活動することができました。

部会活動については協力的な良い部会員に恵まれ、時折の息抜きイベントも含め和やかに3年間で活動することができました。皆様に深く感謝申し上げます。



佐藤 部会長

民生委員・児童委員になって6年になります。色々嬉しい事も、困難な事もありましたが、今は嬉しかったことが思い出されます。コロナ禍では、何も出来ない歯がゆい思いがありましたが、声がけしたり、時折訪問したりと信頼していただけるよう心がけてきました。

3年間の部会活動では、研修の企画運営等に部会員一丸で活動し、おかげさまで充実した時を過ごすことができました。ありがとうございました。



大崎 部会長

福祉専門部会活動において、今まで知らなかった福祉に関わる様々な事を学ぶことができました。

見て触れて体験して学んだ福祉施設の見学研修や講師による講話学習で福祉についての知識を広げ理解を深めてきました。

部会が先導し進行した事例研修では、委員間での活発な意見交換があり、交流も深まりました。今後も研修で学んだ知識を活かして地域の役に立ちたいと思っています。

★ 主任児童委員部会長は、福祉専門部会とも連携しながら、3年間を通して5名の主任児童委員が、その役割を円滑に果たせるようにサポートする任を担ってきました。

★ 広報委員長は、広報委員会を主導し任期の3年間で、「民児協だより」を春と秋の2回、39号～44号の計6紙を発行し、民児協全体の活動をお伝えしてきました。



高田 部会長

主任児童委員として、赤ちゃんから18歳までの子どもたちと関わってきました。

地域の子どもたちとの活動は新鮮で発想の豊かさに感心し、純真な笑顔から元気ももらい、楽しく取り組むことができました。

また、5人の主任児童委員メンバー間の情報交換もしやすく、お互いに協力し合いながら和気あいあいと活動に励むことができ、充実した日々でした。これからも地域の身近なおとなとして子どもたちに寄り添い、見守っていききたいと思っています。



中田 委員長

頼もしい委員会メンバーのおかげで、記事の企画・編集は、活発な議論が交わされ、毎号、新鮮な感覚で取り組むことができました。

振り返れば長くて短い3年間でしたが、民児協全体から民生委員・児童委員個々の活動に至るまで、様々な活動を記事にする過程で、メンバーそれぞれもたいへん貴重な経験を得ることができました。

民生委員・児童委員の一斉改選により広報委員も新メンバーとなりますが、引き続き「民児協だより」をよろしくお願い申し上げます。

兵庫県知事表彰 永年勤続

民生委員・児童委員



加古ブロックの下山賢治氏が20年の永きにわたり、民生委員・児童委員として住民の相談・援助に努め地域福祉の向上に尽くした功績により、兵庫県知事表彰を授与されました。(令和6年11月19日)

編集後記

任期最終の今号は、3年間の集大成として各長のコメントを主体に記事を編成致しました。

この「民児協だより」を読んでいる住民の皆様には深く感謝いたします。

広報委員会メンバー



広報委員会

中田 正剛	魚住 宏子
田中 まさ系	田中 章子
勝樂 義嗣	金岡 麻美子
味村 孝彦	藤本 隆